

第3回 懇談会の概要

第3回四国21世紀のみちビジョン懇談会が17日(月)、高松市内で開催された。

今回は四国地方幹線道路協議会で策定した道ビジョンを報告するとともに、今後の道ビジョンを進めていく上での具体的な取り組み・心構え等に対して、懇談会委員からご意見を頂いた。

『主な意見』

道ビジョンの具体化に係わる意見

- ・ 交通弱者の増加に伴う公共交通機関へのニーズに対応した、ソフト面の工夫を(ICカードの導入など乗り換え・運賃等のバリアフリー化など)
- ・ バス・鉄道等の連携による公共交通機関のレベルアップを(駅前広場整備の促進、既存の駅の活用)
- ・ 地域との協働により既存施設で有効活用されていないものの洗い出しを
- ・ 道路は通信機器等の施設を収容するインフラ。南海地震等の災害を想定した対策検討を
- ・ 安くて便利であることがこれまでの道路の常識。四国の魅力はお遍路道。遍路道の修行というのは迷いながら回るというのがある。あまりきれいにし過ぎず、道の本質を見極めたくて整備をすべき
- ・ 地域住民の道づくりへの積極的参加を。今後、大きな問題になる維持管理においても自治体及び住民双方が互いに助け合っていく仕組みづくりを

コミュニケーション活動に係わる意見

- ・ 高速道路の財政問題や料金体系の抜本的な転換など、根本的な転換・変化を議論する場を
- ・ 情報発信や広報は、官主導ではなく地域主導の時代
- ・ 新しい発想をもった考え方があれば、四国の良さが全国に浸透するのでは
- ・ 道路行政はPRが下手。小さなところで、みなさんの意見をくみ上げてつければ、理解をいただける道づくりになるのでは
- ・ コミュニケーションの場として道の駅は重要。地域活性化にも役立つ。道の駅の運営に関する指導や建設について地域の理解を
- ・ 身近な事例を用いて道づくりを皆で考える積極的な場づくりを
- ・ コミュニケーション活動では、住民あるいは四国を訪れる人にとって、なるべく身近に感じられるものを効果的に情報発信をすべき

施策評価の進め方に係わる意見

- ・ 産業や食糧供給など、四国らしい地域の暮らしに係わる指標づくりを
- ・ 特に、災害時の道路が弱い四国の場合、安心に係わるアウトカムが重要。全国的な数値として定着できるような評価指標の設定を
- ・ 施策の選択は、今後、地域全体で取り組んでいかなければならない難しい課題。
- ・ 財源をどのように配分していくのか、どのような道路を優先していくのか、その仕組みづくりが重要

今後の取り組みに対する提言

- ・ 厳しい規制のために無駄な投資が現行において非常に多いのでは。道路事業への民間参入より、コストダウン、スピードアップを図るべき
- ・ 土地収容権の抜本的強化と改正がないと、根本的な公共政策のコストダウンは図れない。土地収容権など日本の土地政策の抜本的改革といった政策提言も地方から発信すべき
- ・ 全国的に道路が悪いのは四国だけ。もっと地域が考えるべき
- ・ 地方の道路は地域に任せるシステムが必要
- ・ 交通結節点整備については都市交通全体についての問題。道路だけでなく総合的に議論を進めていく必要がある、その際、コミュニケーション活動に関連させて